第 8 回気象学史研究会
「明治創設期の測候所と気象学：期待と役割―旧測候所保存資料から探る」
開催のお知らせ

気象学史研究連絡会

第 8 回気象学史研究会を2020年10月の秋季大会（オンライン開催）に合わせ，オンライン（リアルタイム形式）で開催いたします．

プログラム：

・「広島市江波山気象館所蔵の気象学史的資料」
遠藤正智（広島市江波山気象館）

・「草創期における気象観測所の役割と期待：広島測候所を事例に」
宮川卓也（広島修道大学）

開催日時，開催趣旨・講演要旨，参加申込方法等は2020年 9 月末までに学会ウェブサイトなどでお知らせいたします．

旧広島県広島測候所（現・広島地方気象台，1879・明治12年創立）の資料など，広島市江波山気象館の所蔵資料概要と，本資料を元にして近代気象事業創設期の測候所・気象学に課せられた役割・かけられた期待を探求した研究が紹介されます．150年になろうとする近代気象事業発展の歴史と方向性を考えます．

お問い合せ：

気象学史研究連絡会ウェブサイトの問い合わせフォームをご利用ください．

https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/

山本　哲（研究連絡会世話人・元気象研究所）